

## 鉄筋用クランプ金物

- 特徴 -

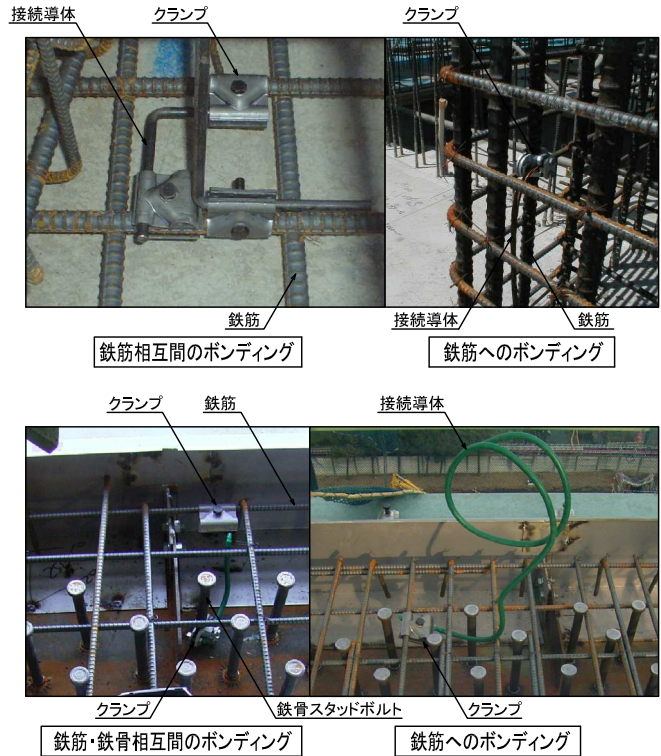
- ・適合する鉄筋に合わせて豊富なサイズをラインナップ。
- ・現場作業はボルト締め付けだけの簡単作業。
- ・電線は現場で長さを調整し取り付けることが出来る。
- ・構造体鉄筋には、熱的応力を加えないため、構造体を痛める心配がない。
- ・雷電流通電性能(100kA又は50kA)を満足するよう設計・製造された製品です。

- 施工手順 -

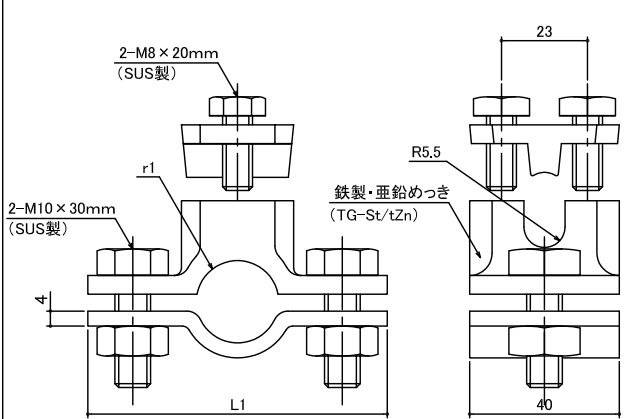
- 1.ボンディングする鉄筋を選定する(鉄筋径を確認する)  
鉄筋を引下げ導体として利用する場合は、50mm<sup>2</sup> (8φ)以上の鉄筋を選定する。  
鉄筋を接地導体として利用する場合は、80mm<sup>2</sup> (11φ)以上の鉄筋を選定する。  
ボンディングする鉄筋は原則として主鉄筋とする。
- 2.各々の鉄筋に適合する接地クランプを選択する。
- 3.接地クランプを鉄筋に付属のボルトにて締め付ける。  
このとき、コンクリート内で使用する場合は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚に影響を与えないように極力クランプ金物を内側に取り付ける。
- 4.接続導体(鬼然り線やIV線等)は、付属のボルトにて締め付ける。  
接続導体は、現場にて長さを調整し取り付ける。  
"、銅の場合、22mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。  
"、鉄の場合、50mm<sup>2</sup>以上の導体を使用する。
- 5.異種金属接触部分は、電蝕防止のため、絶縁防蝕塗料を塗布するか、コーキング又は、保護テープにて覆うとよい。  
但し、含水が考えられる場所以外(地上階)では特に措置を施さなくてもよい。

\*本金物は、JIS A 4201:2003の雷保護等電位ボンディングに対応した金物です。  
\*本金物は、JIS A 4201:1992による避雷設備用としては適用できません。

- 取付写真 -



## 鉄筋ボンディング用 接地クランプ BS



(単位mm)

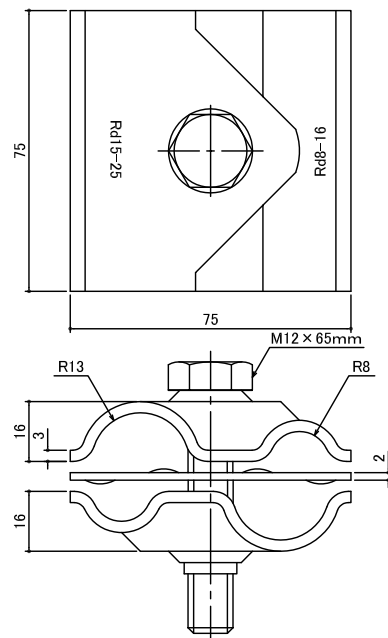
型番/製番	呼称	適合径(鉄筋)	L1×r1	材質
D407 012	1/2	21.3/D19-D22	80×11	鉄製・亜鉛めっき
D407 034	3/4	26.9/D25-D29	83×14	"
D407 100	1	33.7/D32-D35	85×17.5	"
D407 114	1・1/4	42.4/D38-D41	95×22	"
D407 112	1・1/2	48.3/	100×24.5	"
D407 200	2	60.3/	113×30.5	"

\*適合導体サイズ: 4-10mm/14mm<sup>2</sup> ~ 60mm<sup>2</sup>

\*導体100mm<sup>2</sup>以上は圧着端子をボルトに接続して使用することが出来ます。

\*コンクリート内で使用する場合は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚に影響を与えないように極力クランプ金物を内側に取り付けて下さい。

## 鉄筋ボンディング用 接地クランプ MV



(単位mm)

型番/製番	適合導体	適合鉄筋	材質: 本体及びボルト
D308 040	8-16/15-25	D10-D22	鉄製(生地)
D308 041	"	"	鉄製・亜鉛めっき

\*適合導体: 38mm<sup>2</sup> ~ 200mm<sup>2</sup> (それ以下の場合は圧着端子にてボルトに接続します)

\*コンクリート内で使用する場合は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚に影響を与えないように極力クランプ金物を内側に取り付けて下さい。